

# 司祭不在の時の集会祭儀

カトリック桜町教会

集会祭儀（集会祭儀指針より）

- \* キリストの教会は、聖霊が降臨してから、主の復活の記念として過ぎ越しの神秘を祝うために、「主の日」と名付けられた日に、キリスト者の証しとして共に集まることを決して欠かさなかった。(1)
  
- \* そのために感謝の祭儀（ミサ）を行ってきたが、色々な理由でそれに参加できない（司祭の不足、迫害、宗教的自由の制限、社会的・経済的情勢）信徒のために、他の祭儀を考案する必要を司教達は認めた。(4～6)
  
- \* キリスト者は、共に集まることによってキリストの体の肢体として、教会から自分を引き離すことのないように心した。(10)
  
- \* 感謝の祭儀がささげられない場合、特に勧められるのはことばの祭儀（集会祭儀）である。(20)
  
- \* 集会祭儀とミサを混同することがないように、また集会祭儀はミサによりよくあずかれるように、促すものである。(22)
  
- \* この集会祭儀は、司教の招集と担当司祭の牧者としての役務のもとにのみ、開くものとする。(24)
  
- \* 集会祭儀の司式は、第1に助祭にそして祭壇奉仕者に、また朗読奉仕者に、そして一般信徒から養成を受けたものによって行われる。(29～31)
  
- \* 集会祭儀は、開祭・ことばの典礼・感謝・交わりの儀・閉祭によって行われる。(41)
  
- \* 聖体拝領の行われない時でも、「主の祈り」は必ず全員で唱えるか歌うかする。(48)

# 司祭不在のときの主日の集会祭儀

## －ことばの祭儀による式次第－

### 開祭<sup>18</sup>

#### 入祭の歌とあいさつ（起立）

司式者 父と子と聖霊のみ名によって。

－ 同 アーメン。

司式者 主イエス・キリストの恵みと喜びがわたしたちを力づけてくださいますように。

－ 同 アーメン。

#### 回心

司式者 皆さん、主は、わたしたちを集め、心をこめて神のことばに耳を傾けるように招いてくださいました。私たち一同が、兄弟姉妹として心をひとつにして祈り、賛美をささげることができるように、まずわたしたちの罪を認め、心を改めましょう。

（一同しばらく沈黙のうちに反省する）。

司式者 打ち砕かれた心をいやすために遣わされた主よ、あわれみたまえ。

－ 同 主よ、あわれみたまえ。

司式者 罪びとを招くために来られたキリスト、あわれみたまえ。

－ 同 キリスト、あわれみたまえ。

司式者 父の右の座にあってわたしたちのためにとりなしてくださる主よ、あわれみたまえ。

－ 同 主よ、あわれみたまえ。

司式者 全能の神がわたしたちをあわれみ、罪をゆるし、永遠のいのちに導いてくださいますように。

－ 同 アーメン。

---

<sup>18</sup> 先唱者は、①これから始まる祭儀が「感謝の祭儀（ミサ）」ではなく、「司祭不在の集会祭儀」であることを通知し、②小教区担当司祭がどの共同体において「感謝の祭儀」を執り行うかを知らせ、霊的にその共同体と一致するよう一同にすすめ、③その主日を簡単に紹介する（「復活節第二主日」といった典礼暦における位置づけや「召命祈願日」といった特別な意向など）。

立ったり座ったりする合図やお知らせ、聖歌番号などは先唱者が担当し、司式者は祈りの言葉のみを口にしよう役割分担する。

司式者と侍者が荘厳に入堂するような形式は避ける。

司式者は、司祭席や朗読台以外の場所に司式者用の椅子を用意し、その場所で「ことばの祭儀」を司式する。司式者は、会衆と平等な立場にある者として振る舞い、司祭や助祭の動作（手を広げてあいさつしたり、祈ったりすること）はしない。

## 集会祈願<sup>19</sup>

司式者 祈りましょう（一同しばらく沈黙のうちに祈る）

・・・・・・・・・・・・・・・・

わたしたちの主イエス・キリストによって。

一 同 アーメン。

## ことばの典礼<sup>20</sup>

### 第1朗読（着席）

### 答唱詩編

### 第2朗読

### アレリヤ唱（四句節には詠唱）（起立）

福音朗読<sup>21</sup>（朗読の後、全員着席し、しばらく沈黙のうちに神のことばを味わう）

## 勧めのことば<sup>22</sup>

---

<sup>19</sup> 当日のミサの集会祈願を用いることが勧められる。

<sup>20</sup> 当日のミサの朗読箇所が勧められる。事情によっては第一朗読と第二朗読のいずれかを省くことができる。答唱詩編とアレリヤ唱は、朗読箇所に合ったものを選んで歌う。沈黙の祈りをもって代えることもできる。

<sup>21</sup> 朗読者が信徒であれば、「主は皆さんとともに」を省き、「(マタイ)による福音」から始める。

<sup>22</sup> 説教をするのは、司教、司祭、助祭の役割である。司教、司祭、助祭が不在の場合、事前に司祭または助祭とともに集会祭儀準備会をもち、「司祭不在の集会祭儀」参加者が神のことばを心に刻むことができるように打ち合わせをする。以下のようなひとときを過ごす可能性がある。

- ① 今日、私たちに語られた「神のことば」を黙想する時間をもつ（例えば、沈黙のうちに各自、福音を読み返し、味わったり、心に響いたことばを書き出したりするように勧める）。
- ② 集会祭儀準備会における「福音の分かち合い」での気づきや信仰の喜びを、準備会参加者が「証し」あるいは「勧めのことば」として発表する。
- ③ 小教区（ブロック）担当司祭が準備した説教を朗読する。
- ④ 当日の典礼や福音を解説するテキストを朗読する。
- ⑤ その場で「福音の分かち合い」をする。ただし「神の啓示を聴き応答する」という典礼本来の目的から逸れないように注意し、「分かち合い」の実りが祈りとなるように配慮する（例えば、「分かち合い」をしたグループの代表が共同祈願の形で祈りを捧げるようにする。「分かち合い」そのものに関する配慮や説明は、『新生の明日を求めて』130~136, 226~230 頁参照のこと）。

## 信仰宣言（起立）

### 使徒信条

天地の創造主，全能の父である神を信じます。  
父のひとり子，わたしたちの主イエス・キリストを信じます。  
主は聖霊によってやどり，おとめマリアから生まれ，  
ポンティオ・ピラトのもとで苦しみを受け，十字架につけられて死に，葬られ，  
陰府（よみ）に下り，三日目に死者のうちから復活し，  
天に昇って，全能の父である神の右の座に着き，  
生者（せいしゃ）と死者を裁くために来られます。  
聖霊を信じ，聖なる普遍の教会，聖徒の交わり，罪のゆるし，からだの復活，  
永遠のいのちを信じます。アーメン。

### 共同祈願<sup>23</sup>

#### 感謝

- 1 共同祈願の後。または聖体拝領の後。神のいつくしみと栄光をたたえる  
\* 詩編の場合，100 番，113 番，135 番，147 番，150 番など。  
\* 賛歌の場合，栄光の賛歌，ザカリアの賛歌，
- 2 主の祈りの前に聖体容器を，祭壇の上に置き，祭壇の前で賛歌，詩編，連願を歌う。  
\* 主のなされた救いの業を思い起こしながら「ガリラヤの風かおる丘で」，「イエズス・キリストへ」「神はキリストのうちに」「愛の賛歌」「救いの道を」などを歌う。

---

<sup>23</sup> 共同祈願の意向

- ① 教会とその使命のため，
- ② 全世界の救いと国政に携わる人のため，
- ③ 困難に苦しむ人のため，
- ④ 自分たちの共同体のためなど。

教区長の出した教区全体のための意向，司祭召命のための意向も加える。当日の『聖書と典礼』共同祈願例文を使用することもできる。

## 交わりの儀<sup>24</sup>

主の祈り（次のようなことばで一同を「主の祈り」に招く）

司式者 神のことばで養われたわたしたちは、今、主の食卓にあずかるよう招かれています。  
主のからだをいただく前に心を合わせて主の祈りを唱えましょう。

一同 天におられるわたしたちの父よ、み名が聖とされますように。み国が来ますように。  
みこころが天に行われるとおりに地にも行われますように。わたしたちの日ごとの糧  
を今日もお与えください。わたしたちの罪をおゆるしてください。わたしたちも人を  
ゆるします。わたしたちを誘惑におちいらせず、悪からお救いください。

司式者 いつくしみ深い父よ、すべての悪からわたしたちを救い、キリストの平和をお与え  
ください。

一同 アーメン。

## 平和のあいさつ<sup>25</sup>

司式者 互いに平和のあいさつを交わしましょう。

## 拝領前の信仰告白<sup>26</sup>

司式者 信仰のうちにキリストのからだを受けましょう。

一同 主よ、わたしは、いたらぬ者です。一言でもいただければ、わたしの心はいやされ  
ます。

---

<sup>24</sup> 奉仕者は、手を洗い、祭壇の上にコルポラーレを広げる。聖櫃を開けて一礼し、聖体の器を取り出し、祭壇の上に置く。ふたをとり、聖体に対して深く礼をする。

<sup>25</sup> ここで平和のあいさつを交わすこともできる。一同は「主の平和」と言いながら相互にあいさつをする。

<sup>26</sup> 司式者は深く礼をしてから、パテナを添えてパンを捧持し、一同に示して言う。

## 拝領<sup>27</sup>

聖体奉仕者

          キリストのからだ。

拝領者  アーメン

感謝の祈り<sup>28</sup>（ザカリアの歌，マリアの歌など）

---

### <sup>27</sup> 聖体拝領

- ① 拝領前の信仰告白の後，拝領の歌が始まる。拝領者は行列をつくる。
- ② 聖体奉仕者は拝領者一人ひとりにパンを示しながら「キリストのからだ」ということによって信仰告白を求める。信者は明確に「アーメン」と答えることで，キリストのからだを拝領することによってますますキリストのからだとなる決意を表明する。聖体奉仕者は拝領者が「アーメン」と答えたのを確認してから授ける。
- ③ カトリック教会の洗礼を受けていない人や初聖体前の子どもが並んでいる場合，聖体奉仕者は祝福をともに祈ることができる。例えば，聖体容器を持っていない方の手を自分の胸にあて，軽く頭を下げつつ「キリストの祝福がありますように」と祈る。
- ④ 聖体奉仕者は，一同に聖体を授け，最後に司式者または他の聖体奉仕者から拝領する。
- ⑤ 拝領後，パンの小片が残っている場合は，ていねいにそれを集めて聖体容器に入れるか，用意された器の水に浮かせて飲み，プリフィカトリウムでふく。
- ⑥ 聖体奉仕者は，残りのパンを聖櫃に納め，深く礼をしてから扉を閉じる。その後，着席して一同とともにしばらく沈黙のうちに祈る。

<sup>28</sup> 拝領後の短い黙想の後，集会祭儀司式者は，他の信者ととともに祭壇の方に向かって立ち，神の栄光といつくしみをたたえるために「福音の歌」を歌う（午前なら典礼聖歌 83「神をほめたたえよ」，午後なら典礼聖歌 178「わたしは神をあがめ」など）。詩編を歌うこともできる（典礼聖歌 22, 27, 29, 50, 109, 135, 142, 172, 174 など）。

## 拝領祈願<sup>29</sup>

司式者 秘跡の恵みを感謝して祈りましょう  
(一同しばらく沈黙のうちに祈る)  
.....  
わたしたちの主イエス・キリストによって。  
一 同 アーメン。

## 閉祭

お知らせ (着席)

## 結びの祈り<sup>30</sup> (起立)

司式者 全能の神、父と子と聖霊がわたしたちを祝福し、すべての悪から守り、永遠のいのちに導いてくださいますように。  
一 同 アーメン。

司式者 賛美と感謝のうちに。  
一 同 アーメン。

## 結びの歌

---

<sup>29</sup> 司式者はたとえば次のようなことばで一同を祈りに招く。祈願は当日のミサの拝領祈願を用いることが勧められる。ただし当日の拝領祈願の中にミサ固有の表現が含まれている場合（例えば、「主の晩さん（主の過越）にあずかったわたしたち」、「一つのパン、一つの杯（主の御からだと御血）をいただいたわたしたち」など）は、以下の祈りを用いることが勧められる。

- ① 「恵み豊かな父よ、あなたはわたしたちを、死んで復活されたイエス・キリストの記念にお集めになり、御子のために聖化された主の日を祝うようにしてくださいました。どうかわたしたちを、キリストのことばに従って生きる証し人にしてください。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。」
- ② 「豊かないのちを与えてくださる神よ、福音に強められ、聖体に養われた民の歩みを導いてください。キリストによってもたらされた神の国の幸いを、日々出会う人々とともに味わうことができますように。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。」

<sup>30</sup> 司式者は、一同の上に神の祝福を求め、皆とともに自分自身に十字架のしるしをしながら言う。

## 聖体拝領を行うことが出来ない場合

- \* 指針の48番にあるように、何らかの理由で聖体拝領が行われない時には、キリスト者が集まる時に、主の体を形作られていることを思い、主の祈りによって、主の体に与っていることを味わう。(霊的聖体拝領のいのりを唱えても良い。)